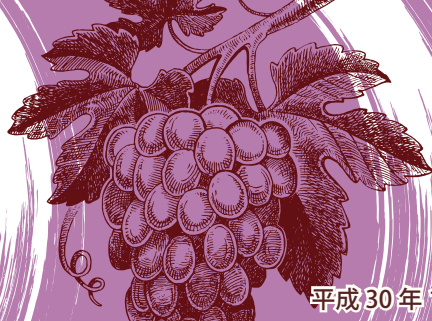


STRUM

シュトゥルム



第41号
平成30年10月15日発行

10月に入っても季節外れの真夏日を記録するほど長引いた暑さもようやく終わり、気持ちよく動ける季節になりました。皆さん夏の疲れは出ていませんか？ TRAUBENの一大イベント、ユニオンチャーチコンサートも、今年もまたご好評をいただいて終わることができ、イギリス館の頃から数えて10回も続けられたことを、スタッフ一同心より感謝しています。今年も残り2か月余り、12月のリサイタルもあつという間にやってきます！

近況報告 イギリスのロマン派詩人ジョン・キーツに To Autumn (秋に寄す) という詩があります。「霧が漂う豊かな実りの季節よ 恵みの太陽の親密な友よ 秋は日の光と手を携えて生垣を這う葡萄にも実りをもたらす～(続)」と秋の風景を綴った詩です。結核を病み24歳でこの世を去ったキーツが間借りをしていた家、通称キーツハウスがロンドンの北に位置するお屋敷街ハムステッドにあり、ロンドンの私の家から広大なハムステッドヒース(東京ドーム68個分の森)を抜け歩いて30分、夕方、突然に晴れることの多いイギリスの秋、「千切れ雲は暮れ行く空を彩り 夕日が大地をバラ色に染める」と詩の中でも詠われるハムステッドの森を夕暮れ、隣人の犬を連れキーツハウスまで散歩し、家の前の屋台の熱くて濃いミルクティーを飲むのが日課でした。実りの秋、芸術の秋、感覚がいつもより少し研ぎ澄まされるこの季節、11月3日(土)には山手ベリックホールにてオータムコンサート、そして皆様に支えられて、12月20日(木)クリスマスコンサートは16回目を迎えます。感謝と演奏できる喜びを忘れることなく、丁寧にヴァイオリンを奏でていきたいと気持ちを引き締めています。

【伊都】

Wiener Wind ユニオンチャーチコンサート

9月16日、記念すべき TRAUBEN の10回目となるコンサートが、今年も横浜山手のユニオンチャーチで開催されました。長く続いた猛暑も少し収まった9月半ば、開演の5時には暑さも凌ぎやすくなりました。ピアニストは長年の友人、近藤紗織さんです。

今年の選曲のテーマは「映画の中のヴァイオリン曲」。以下、伊都さんのコメントです。「けっこうマイナーな映画で使われている、ヴァイオリンの曲、有名、無名問わず、映画の中でただBGMではなくて、かなりその作品やストーリーに影響を与えている、この曲だからこのシーン！という曲を集めてみました。

ヴァイオリンの音色って、本当に変幻自在で例えば映画の中でも、感情とか、景色とか、雰囲気とか、色々なことを表現できることが伝えられたらいいかなと思いました。」

- ・コリアーノ：レッドバイオリンカプリス 映画「レッドバイオリン」
- ・モーツァルト：アイネクライネナハトムジーク 映画「アマデウス」「エイリアン」
- ・ジャズット：アルビノーニのアダージョ 映画「マンチェスター・バイ・ザ・シー」
- ・サン＝サーンス：死の舞踏 映画「スリーピー・ホロウ」
- ・バッハ：G線上のアリア 映画「セブン」
- ・ヤナーチェク：ヴァイオリン・ソナタより1楽章 映画「存在の耐えられない軽さ」
- ・ピアソラ：Tango Appassionato 映画「ブエノスアイレス」
- ・アイリッシュメロディー：麦の穂をゆらす風 映画「シャーロックホームズ」 等々

また、最後の曲、サラサーテのツィゴイネルワイゼンが伊都さん渾身のジプシー曲、誰にも真似のできない彼女にしか弾けない！魂の表現ですが、そこにもこんな思いがあったそうです。「『ジプシーキャラバン』という、いろんな国のジプシーのミュージシャンたちが、集められてアメリカでコンサートツアーをする様子を映画にしたロードムービーがあって、原題は『When the Road Bends』で曲がりくねった道はまっすぐには歩けないという、ロマ(ジプシー)のことわざから来ているのだけれど、虐げられたり、色々なことがあっても、音楽は道を歩き続けるための強力なツールになるということ、そんなパッションがツィゴイネルワイゼンで表現できたらいいなと思っていました。」

アンコール曲「ラベンダーの咲く庭で」は、Strum 第10号でご紹介した映画の主題曲、流れる美しい旋律の余韻がいつまでも残る、素敵なコンサートになりました。



オータムコンサート ～ヨーロッパの香り～ at 横浜山手ベーリックホール

Violin 加納 伊都

Piano 三又 瑛子

2018 年 11 月 3 日 (土) 18 時開演

参加費：3,000 円 (飲物・軽食付)

申込み：ベーリックホール

045-663-5685

ドビュッシー：月の光

バルトーク：ルーマニア舞曲

シュトラウス：

オペラ「薔薇の騎士」より「ワルツ」

他

元町・フランス菓子 料理教室

「Eiko Morita」さんが、

おもてなし料理を作ってくださいます



第 16 回 加納伊都ヴァイオリンリサイタル

2018 年 12 月 20 日 (木) 18:30 開場 19:00 開演 横浜みなとみらいホール 小ホール
一般 3,000 円 学生 2,000 円

Piano 松尾久美

ストラヴィンスキー：バレエ音楽「プルチネラ」よりイタリア組曲

ドビュッシー：ヴァイオリン・ソナタ

ブラームス：ヴァイオリン・ソナタ第 2 番

チャイコフスキー：ワルツ・カプリス 他

11 月上旬にご案内をお送りします。お楽しみに！



DVD Classic Collection

作品 No.34

「マンチェスター・バイ・ザ・シー」

2016 年 アメリカ

～一人の男の絶望と再生～



あらすじ

ボストン郊外でアパートの便利屋として働くリーは、兄の急死の知らせを受け、車で一時間半離れた故郷、マンチェスター・バイ・ザ・シーに戻る。リーは兄の遺言により、一人息子で 16 歳になる甥パトリックの後見人となって自分との今後の生活を考えるが、リーには故郷に戻れない理由があった。過去に、ここで癒えることのない悲劇を経験していたのだ。

見どころ

2017 年アカデミー賞主演男優賞、脚本賞の 2 冠に輝いた作品。ユニオンチャーチコンサートで伊都さんが弾いた「アルビノーニのアダージョ」が一番悲しいシーンで流れる、伊都さんイチオシの映画。この曲は誰もが耳にしたことがあると思うが、なるほど、ただの BGM ではない存在感。物語の構想はプロデューサーとして関わったマット・デイモンによるもの。

感想

マンチェスター・バイ・ザ・シーという海辺の町の、静かで寒くて美しいところが、そのままストーリーと被る。人生の癒えない痛みも苦しみも、無理して乗り越えなくていいんだよ、という優しさを感じる作品。坂道で元妻とばったり会うシーンの会話が泣ける。リーを演じたケイシー・アフレックの暗い、青い目が印象的。静と動の感情表現のコントラストが際立つ。

*DVD は TSUTAYA の店舗でレンタル可能な作品のみをご紹介します

編集後記 映画とクラシック音楽、意外とつながりを持っています。この紙面の DVD Collection も当初は数回で終わると思っていましたが、34 回も続いてしまいました。9 月のコンサートでは伊都さんがなかなかマニアックな映画まで紹介してくれて、TSUTAYA の店舗ではお目にかかれないものも多々あります。「レッドバイオリン」もそのひとつ。コンサートでは、伊都さんがそのあらすじを書いたものを配りました。最近では映画見放題の動画配信サービスも増えましたが、実際利用しても、このクラシック関連の映画はそんなに多くはありません。店舗でレンタルという形態がいつまで続くのかわかりませんが、あとしばらくはネタを探す楽しみも続きそうです。〈ゆ〉

発行：加納伊都後援会 TRAU BEN

〒231-0835 横浜市中区根岸加曽台 15

TEL：045-622-6780

FAX：045-621-6423

Email：trauben@itokanoh.com

Homepage：itokanoh.com